

当院での老人看護専門看護師の活動報告

小栗 智美

日本医科大学付属病院看護部

Roles and activities as a Certified Nurse Specialist in Gerontological Nursing in our hospital

Tomomi Oguri

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2012; 8: 268-269)

Key words: Certified Nurse Specialist in Gerontological Nursing, Gerontological Nursing

1. わが国の現状～5人に1人が高齢者という社会～

平成23年度の高齢社会白書によれば、平成22(2010)年10月1日現在、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,958万人(前年2,901万人)となり、総人口に占める割合(高齢化率)も23.1%(前年22.7%)となった。75歳以上人口、いわゆる後期高齢者についても、総人口に占める割合は11.2%となり、75歳以上の人口が増加していることがわかる¹。現在、わが国では、5人に1人が高齢者、9人に1人が後期高齢者という、超高齢化社会の到来を迎えている。今後は団塊の世代(昭和22(1947)～24(1949)年に生まれた人)が高齢化することで、高齢化が加速されると推計されている。これらの背景から、今後は、東京、神奈川、埼玉、愛知、大阪などの都市部の増加率が深刻になると推測されている²。

2. 老人看護専門看護師とは

専門看護師は、日本看護協会に認定された資格であり、複雑で解決困難な看護上の問題を抱える個人、家族および集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための特定の専門看護分野の知識および技術を深めたものをいい、6つの役割(実践、相談、調

整、倫理調整、教育、研究)を果たす。

今後ますます高齢化が進むわが国ではあるが、老人看護専門看護師は平成24年2月1日現在、41名おり、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、療養型病床群、訪問看護、老人保健施設、特別養護老人ホーム、大学など、その活動場所は多岐に渡っている。たとえ活動の場が異なっても、高齢者の代弁者(advocate)の役割、ケアの質の維持・向上を目指した看護実践を目指している³。

3. 当院での老人看護専門看護師の活動

わが国の高齢化の進み具合を物語るように、平成21年度の当院の受診患者においても、約半数が高齢者患者であり、またそのうち後期高齢者は1/4を占めるなど、受診する患者も高齢化している。そのような状況の中、私は、PSC(Patient Support Center:以下PSC)の一員として、退院調整看護師や社会福祉士とともに、病棟主体の退院支援をサポートしている。高齢者は、複数の疾患を持つことが多いが、その疾患が影響し合いながら複雑な臨床症状を呈す。さらに、せん妄を起しやすいく、認知機能が低下していることなどから、自らに起きている状況の理解が難しかったり、要望を言葉ではなく行動で示したりして、客観的に状態を判断することが難しい場合がある。私に関わ

る高齢者の平均年齢は84歳であり、認知機能および生活機能が低下した高齢者が9割を占め、前述の状況に陥る場合が多い。そのため、高齢者本人が起きている状況をどのように受け止め、今後病気や障害とどのようにともに生活していくかという視点から、早期に身体状況を整える、合併症予防に努める、高齢者が適応しやすい環境を整えることなどに努めている。また、病棟責任者やスタッフから高齢者ケアについての依頼を受けることもあり、患者本人がどのような状況であっても、自らに起きている状況をどのように受け止め、今後病気や障害とどのようにともに生活していくかという視点を持ち、高齢者の能力や機能が維持され、高められるように支援している。しかし、そのように支援していても、患者・家族が希望しているよりも本人の生活機能が低下する場合や、新たな医療処置が加わる場合があるが、その際は、本人が望む療養場所へ移行することを支援し、生活再編ができるよう、病棟、PSCのスタッフとともに調整している。

また、院内の研修のコースを担当し、老年看護分野の知識を持った看護師の育成をめざしている。それ以外にも、印象に残ったケースについて病棟単位での勉強会を企画運営し、成功ケースは喜びを分かち合い、困難ケースは困難だった理由をともに考え、関わり方を振り返り次の成功に結びつけられるように、高齢者ケアに関する現場力の向上を目指している。

このような活動を通し、忙しい病棟のスタッフ自身の中にも、入院前の高齢者の生活を情報収集しようと、家族やケアマネージャーなど地域で高齢者を支え

る人と連絡調整をする看護師の姿が増えつつあると感じる。また、入院前の生活状況から高齢者の持つ能力や大切にしている価値観をイメージし、入院生活に取り入れるように看護師が関わるようになった結果、高齢者の機能の維持・向上に結びつき、本人と家族が希望する療養生活の場での生活が継続できるように支援できたケースも見られていると感じる。

4. 今後の課題

急性期病院において、言葉で十分表現されにくい高齢者の思いをくみ取ることや引き出すことは時間を要し、忍耐強さも必要とされる。今後は、忙しい中でも高齢者と関わるスタッフとともに、関わりによる高齢者の変化を共有し、高齢者を包括的にアセスメントする重要性をケースを通して啓発し、高齢者ケアの質の向上を目指していきたい。

文 献

1. 第一章 高齢化の現状. 平成23年度高齢社会白書, pp 2-7.
2. 国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(平成19年5月推計).
3. 桑田美代子: 特集高齢者看護の現状と展望—21世紀は看護の時代—高齢者看護領域における専門看護師・認定看護師制度1) 老人看護専門看護師の実践と展望. Geriatr Med 2006; 44: 1079-1085.

(受付: 2012年4月2日)

(受理: 2012年4月9日)